

2012年1月16日

診断バイオマーカー探索事業の再編について

三菱化学株式会社

三菱化学株式会社(本社:東京都港区、社長:小林 喜光)は、三菱ケミカルホールディングスグループが掲げる「ヘルスケアソリューション」の一環として、株式会社モレキュエンス(以下「モレキュエンス」)および株式会社三菱化学科学技術研究センター(以下「MCRC」)において、疾患治療と疾患予防に役立つ「診断バイオマーカー」^(※1)の探索事業を行ってまいりました。

その結果、モレキュエンスが脳梗塞疾患の進行について従来の常識を打ち破る新事実^(※2)を発見し、さらには、有望な脳梗塞の診断バイオマーカー候補^(※3)の探索にも成功したこと、一方、MCRCも肝臓ガンなど各種のガンに関する有望な診断バイオマーカー候補を発見したことから、それらの早期の実用化に向けて、モレキュエンスの研究成果と探索機能をMCRCに承継したうえで、モレキュエンスを2012年3月31日付で発展的に解散させ、診断バイオマーカー探索事業をMCRCに一元化することといたしました。

株式会社モレキュエンスの概要

- 事業内容 バイオマーカー探索による創薬・診断システム開発支援
- 代表者 代表取締役社長 鈴木 一夫
- 設立日 2007年4月1日
- 資本金 2億5千万円(三菱化学100%出資)
- 所在地 神奈川県横浜市青葉区鴨志田町1000番地
三菱化学株式会社横浜センター内

株式会社三菱化学科学技術研究センターの概要

- 事業内容 化学全般に係わる研究、開発、分析、測定、調査など
- 代表者 代表取締役社長 柴田 喜三
- 設立日 2003年7月1日(三菱化学グループ97.1%出資)
- 資本金 25億4千万円
- 所在地 モレキュエンスに同じ

以上

【解説】

(※1) 「診断バイオマーカー」とは？

疾病の罹患有無や進行度などに応じて、血液中・尿中における濃度や質が変動するタンパク質などの生体内物質のこと。これら生体内物質を検出・分析することで、疾病の罹患有無や進行度などを診断することができる。

中でも、特定の医薬品に効果のある患者、または副作用の現れる患者を事前に識別できるタイプの診断バイオマーカーは「コンパニオン診断薬」と呼ばれ、2011年7月に米国食品医薬品局(FDA)が、医薬品とコンパニオン診断薬をセットにした同時開発と同時承認を推進するガイダンス案を発表した。

わが国の厚生労働省も2014年度完了を目処にして、医薬品とコンパニオン診断薬の同時承認プロセスの基準策定を開始している。

(※2) モレキュエンスが発見した「脳梗塞疾患の進行についての従来の常識を打ち破る新事実」とは？

従来、脳梗塞に起因する主要な生体反応は急性期(発症後数週間程度)までにはほぼ終息するものと見られていたが、2007年に始まった三菱化学・モレキュエンス、九州大学医学部および久山生活習慣病研究所の共同研究により、「発症後数ヶ月を経過してもなお、多数の因子が変動している」という事実が発見された。

(※3) モレキュエンスが発見した「脳梗塞の診断バイオマーカー候補」とは？

2007年に始まった三菱化学・モレキュエンス、九州大学医学部および久山生活習慣病研究所の共同研究により、脳梗塞やその病型診断を可能とする診断バイオマーカー候補が発見され、現在、大規模検証試験を継続中。

【本件に関するお問合せ先】

三菱化学(株)広報室

電話: 03-6414-3730